

# ひろばちがさき

No. 949

新政ちがさき

2011年12月2日

茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1市役所内0467 (82) 1111

新政ちがさき有志

岸 正 明 87-8766

こいそ妙子 52-6731

和 田 清 84-9969

よしかわ和夫 86-0032

西田 淳一 83-7293

## 介護の社会化実現に向け、介護保険を適正に！

11月30日に始まった12月議会定例会初日、和田清議員が一般質問を行いました。

### 【和田 清 議員】

核家族化の流れを受け、高齢者夫婦の世帯が、配偶者を介護する「老々介護」や、高齢者の母と息子二人の世帯で起こる「日中独居」など、介護の社会化が進んでいない状況では、高齢者虐待や心中などが起こる。介護の社会化を進めるためには、介護保険制度の適正運用と、地域の実情に合わせた茅ヶ崎市の対応が必要である。

### ●介護のための必要な資源を！

茅ヶ崎にとって必要な社会資源（特に、入所待機者が400名を超える特養建設など）は、喫緊の課題である。必要な施設やサービスを作ると、介護保険料や茅ヶ崎市の持ち出しは増えるが、その分の国や県の補助も増える。政策に軽重を付け、重点的な資源の整備が必要である。市長の考えを問う。

### ●介護認定の適正化を！

昨年行われた介護保険法改正により、認定基準の見直しが行

われ、要介護の人が、状態が変わっていないのに、要支援に落ちて、使えていたサービスが使えなくなる事があった。

市は、介護認定を適正に行っているのか、市民に分かりやすく説明する必要がある。藤沢など比べ、茅ヶ崎は適正に行われていないとの指摘もある。実態を伺う。

### ●介護度が下がる人へ支援を！

介護度が下がる人には、状態が改善した場合も想定されるが、今まで使えていたサービスが使えなくなるなどの不安や不満がある。しっかりと支援を行うべきと考えるが市長の考えを問う。

### 【市長】

介護保険制度は、社会資源の増加や、サービス供給が増えても、地方交付税などの支援があり、市の負担が比例して増加するものではなく、必要な資源は整備していきたい。認定調査は、公平に行うべきとの国の方針に従い、市の職員や担当ケアマネ以外の調査員が行っている。

介護度が下がった人たちに對しては、インフォーマルな支援

も含め、しっかりと支援していきたい。

### 【保健福祉部長】

新認定調査担当は、中立公正を図るため、担当ケアマネ以外が行っている。県内でも約半分の市町村は同じ方法である。また、認定審査会

## 子ども達を通学路での交通事故から守ろう！

### 【和田 清 議員】

一中生が、通学途上に暴走したトラックに撥ねられて死亡した悲惨な事故から4年が経った。大切な子どもを一瞬で奪われた両親の気持ちを思うと胸が痛む。二度とこのような事故が起きないようにするのが、我々大人の責務である。

### ●通学路安全対策の取組を！

通学路の改善に向けて、危険度・緊急度・費用対効果など、調査と分析を行い数値化などの可視化により、データを客観化し積み重ねる事により、計画的具体的な対応を行うべきである。市の取組を問う。

### ●通学時の交通規制は可能か？

雄三通りの社会実験を踏まえ、一中学区の通学時交通規制は可能か、検証と成果を問う。

での変更率も介護度が下がる人の割合は決して多くない。

介護保険料も他市と比べ平均的である。来年開所する特別養護老人ホームを始め、いくつかの開所計画があり、更に充実させていきたい。

### ●一年間の具体的成果を問う！

一中通り、萩中正門前、今宿小正門前、松林中東、養護学校周辺など、一年間の成果を問う。

【市長】毎年上がる要望を対策会議で共有し、出来る事から取り組んでいる。地域住民の理解と協力が必要であり、しっかりと訴えていきたい。

### 【副市長】

標識やカーブミラー、バンプ、横断歩道、信号機の設定など、県警等と連携し行ってきた。養護学校周辺に関しては、相模縦貫道の工事と調整しながら要望も含め対応していく。

### 【教育総務部長】

情報の検証、分析など今後の課題として取り組んでいきたい

### 【都市部長】

雄三通りの社会実験は、周辺道路への影響も大きく課題が残っている。